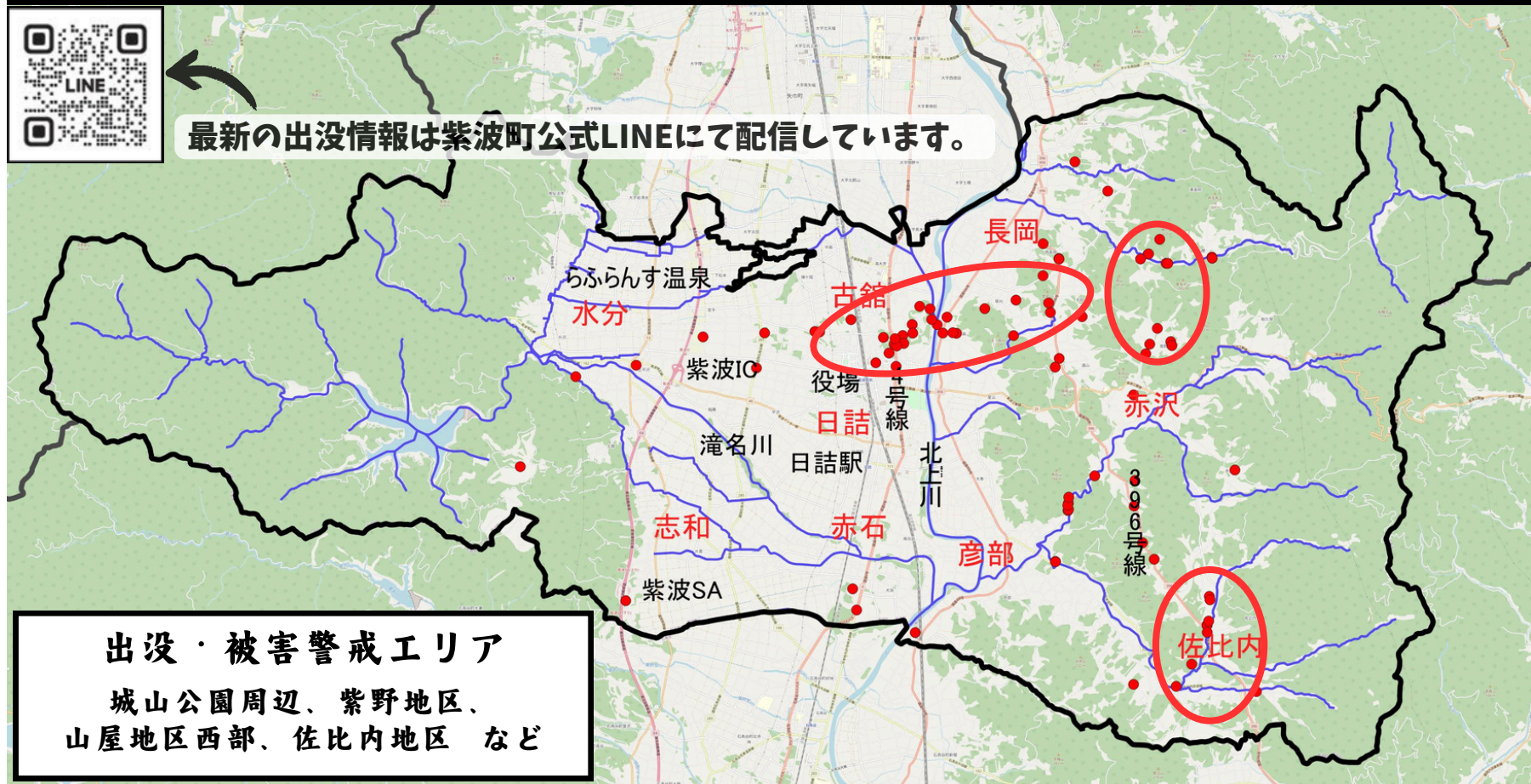


紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（4月）



最新の出没情報は紫波町公式LINEにて配信しています。



出沒・被害警戒エリア
 城山公園周辺、紫野地区、
 山屋地区西部、佐比内地区 など

紫波クマ通信

13号

発行
 2026年4月6日
 紫波町環境課
 地域おこし協力隊
 近藤雄太

今月のイベント情報
 お花見ウォーキング
 クマに遭わない歩き方
 4月15日(水)
 14:00～15:00
 集合場所
 城山公園 平和塔付近

バックナンバーはこちらから



4月のクマ情報

例年、4月頃になると冬眠から目を覚ましたクマが一斉に動き始めます。本年はすでに全国各地でクマの目撃情報があり（紫波町内では3月に佐比内地区で出沒を確認）、紫波町内でもこれからの目撃情報が増加していくことでしょう。

ここ数年で城山公園へのクマの出没時期が早まってきている傾向にあり、昨年4月から目撃情報が寄せられ、センサーカメラでもその姿が確認されました。城山公園へは東側から北上川を渡ってくるクマだけではなく、西側から北七久保周辺の住宅付近を通り抜けてやってくるクマがいることも確認されています。城山公園周辺以外でも遭遇する可能性は十分にあり、町で、町の公式LINEなどでクマの出没情報の確認することが被害防止のためにも有効です。

また、春先のクマは農地や森林にエサが少ないこともあり、保管されている米やリンゴなどを狙って小屋や人家などに侵入するケースが多くあります。米やリンゴを保管する場所は鍵のかかるようなクマが入れない環境にしておくようお願いいたします。クマは一度餌を食べた場所には何度もやって来るようになるため、クマの被害を受ける前から対策をすることが何よりも重要です。

万が一保管している米などが荒らされていたり、小屋などから聞きなれない物音がするようなどがあれば、安全のためにも自分だけで確認をしようとして決して役場環境課まで連絡をいただければ幸いです。

ちょこつとクマ知識

水芭蕉はクマのお薬

水芭蕉（ミスバショウ）は日本人なら誰もが知っているような花が印象的な植物だ。そんな水芭蕉をクマが食べるということはあまり知られていないのではないだろうか。

きれいな白い花を咲かせることで知られている水芭蕉だが、実は葉っぱや茎に有毒成分を含んでいる。この有毒成分はシユウ酸カルシウムというもので、嘔吐や下痢を引き起こすことで知られており、脈拍低下をすることもあるため摂取量によっては最悪死に至ることもある危険な成分だ。

なぜ、クマはこんな危険な植物を食べるのかと疑問に思う人もいるかもしれない。だが、その有毒成分が冬眠明けのクマにとって大切な下剤の役割を果たす。クマは冬眠中排便を行わないため、冬眠明けに硬くなってしまった便を排出する目的で水芭蕉を採食するのだ。

現代では考えられないが、水芭蕉は昔の日本でも便秘薬として利用されていたことがあったという。きれいな花には棘があるとはよく言うが、その棘さえも利用してしまうクマは本当にたくましい生き物だ。



今月の話題

紫波のクマを知る
 東のクマと西のクマ

実は紫波町には2種類のクマが生息している。2種類とはいってもヒグマとかホッキョクグマといった生物学的な種の話ではなく、生息域の話だ。1種類目は北上山地地域個体群と呼ばれるツキノワグマで、紫波町の東側、北上山地に生息している（以降、東のクマと呼ぶ）。

2種類目は北奥羽地域個体群と呼ばれるツキノワグマで、紫波町の西側、奥羽山脈に生息しており、秋田県に出没するクマと同じ種類でもある（以降、西のクマと呼ぶ）。

この2種類のクマは同じツキノワグマであるのだが、遺伝子的に多少の差異はあるとされており、パッと見てわかるものではないが顔つきなどにも違いがみられるともされている。

また、その行動様式にも違いがみられ、東のクマは山伝いに移動することが多く、道路上を横断する際に目撃をされることが多いが、西のクマは滝名川などの河川や水路を移動することが多く、市街地周辺での出沒も確認されることが少なくない。

この2種は食性にも違いがみられる。東のクマはブドウやリンゴなどの果樹を好んで採食し、西のクマはキュウリや家畜用飼料を好んで採食する傾向がある。また、近年よく話に聞く柿を食べるクマはどちらかというと西のクマに多い。東のクマも西のクマも米やトウモロコシなどの穀類は好んで採食することがわかっている。

